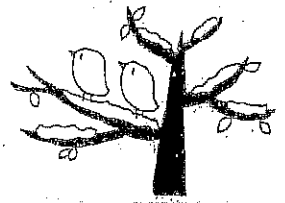


ほけんだより



令和5年度 12月号

早いもので、今年も残り数十日となりました。寒さも一段と厳しくなり、咳や鼻水などの風邪症状の園児もいます。これから年末にかけてイベントが盛りだくさんです。引き続き体調管理には十分気を付けていきましょう。

～～～10・11月の感染症情報～～～

10月：インフルエンザA型	・・・・・・・・1名	(ぺんぎん組)
11月：新型コロナウイルス	・・・・・・・・4名	(ぺんぎん組 2名 くじら組 2名)
アデノウィルス	・・・・・・・・1名	(ぺんぎん組)
インフルエンザA型	・・・・・・・・1名	(あかちゃん組)

胃腸炎が流行しやすい季節になりました。胃腸炎は症状（下痢や嘔吐、発熱など）が治まり、普通の食事がしっかり食べられるようになってから登園可能です。主症状が無くなってからも数週間（ウイルスの種類によっては約1ヵ月）便にウイルスが排出されます。トイレの後の手洗いやオムツ交換後の便の処理には十分気をつけてください。

胃腸炎に係わらず嘔吐物や便などで汚れた衣類は感染拡大を防ぐ（二次感染予防の）為、園では水洗いや洗濯をせずにお返しする場合があります。家庭での適切な対処・洗濯のご協力お願い致します。

動きやすい服で登園しましょう。

最近の子ども達はとってもおしゃれです。ただ、園での服装は「活発に遊べるもの」を考慮して選んで頂きたいと思います。

下着を着る

保湿性・吸湿性を考えると綿100%で半袖のものが望ましいです。キルティングの長袖シャツでは子どもは動きにくく、暑すぎます。



安全なものを着る

フードや紐はどこかに引掛る恐れがあるので気を付けましょう。チャックやボタンは子どもがひとりで着脱し易いか、安全かどうか家庭で確認してみましょう

うす着でも平気

園では暖房がほぼ1日中使用されているので、裏起毛の衣類やヒートテックは（日中）暑すぎます。着せ過ぎは汗をかいて逆に冷えてしまいます。外に出る時はしっかりした上着（防寒衣）を着て、中は着脱し易い薄手の服装で登園するのが望ましいです。

全ての衣類に（ジャンパー含め）記名してください

肘内障について

～勤医協札幌病院発行 のびのび通信より～

子どもと手を繋いで歩いている最中、転びそうになって 咄嗟に手を引っ張った際などに起こります。 腕を動かす度に痛む為、片腕をだらんと下げた状態になります。

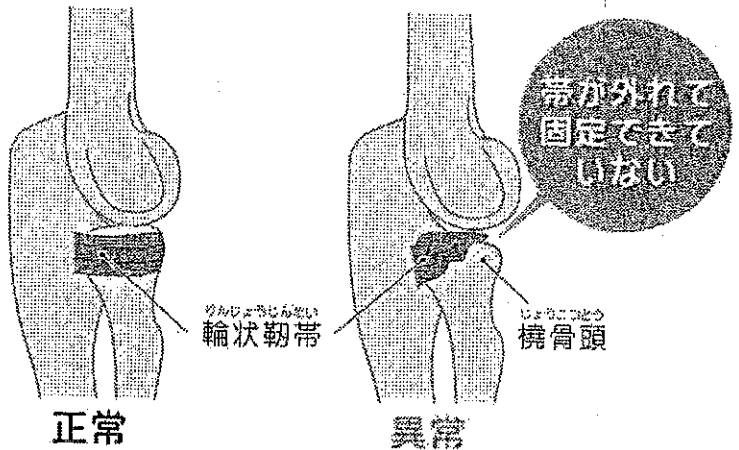
輪状靭帯が未発達な1～6歳頃の小児に多く 上記の様に手を引っ張ったり、転んで肘をうったり、手をついた際に起きやすいです。

肘内障は発生状況や受診の際の所見から判断することが多く、場合によっては徒手整復（道具を使わずにズレた骨を元の位置にもどすこと）を小児科の診察室で行う事もあります。

整復の際に軽い痛みがあるため、子どもは泣きますが痛みは数分で治ります。その後バンザイが出来ることが確認できれば治療成功です。

小児科で上手く整復出来なければ整形外科の受診をすすめます。

肘内障が治った後は激しい運動は避け、家庭で静かに過ごしましょう。



Cf. 日本整形外科学会

予防接種後は . . .

入園時にも説明した事柄ですが当園では予防接種後は登園できない事になっています。接種後は副反応や体調変化を見るためにも家庭でゆっくり過ごしてください。

医師の意見書

札幌市からのお知らせがありましたのでお伝えします。

札幌市では令和5年11月18日以降、園児がインフルエンザ及び新型コロナウイルス感染症に感染し、登園を再開する際の治癒証明書（医師の意見書）の提出が不要となりました。当園でも今後はインフルエンザと新型コロナウイルス感染症の場合『医師の意見書』から保護者記入の『意見書』に変更します。

